

県内では消雪用の井戸の需要が高い。地下水は災害時にも大きな役割を果たす

|| 天童市内

# 井戸の有効活用 県と協定締結 生活用水に生かす

井技術  
さく井  
協



大規模災害時に被災者が直面するのが水の問題だ。飲料・炊事はもちろん、洗濯、トイレの処理など生活用水をいかに確保できるかが、「備蓄」の重要な要素になる。

県内の井戸掘削業者など11社（賛助会員を含む）で組織する県さく井技術協会（代表・高田信一、高田地研会長）は、県と災害時応援協定を締結し、万が一の際に井戸水を確保する態勢を整えてい

られた。費用面などの条件から防災井戸の新設は進まなかつたが、その代わりに、既存井戸を有効に活用しようという機運が高まり、協定締結につながった。

県内各地の井戸掘削業者は各地域の地下水の水質、井戸の状況などを詳しいデータを保有している。災害時にはそうした情報を提供、共有するとともに、各社が資材や技術を投入して臨時の水源を確保することが可能になる。ほかに、

水道が使えない避難所などで自治体からの要請があれば、手動でくみ上げられる井戸を掘削すること

高田誠社長はこうした事例を踏まえ「地下水は大切な資源。消雪用水などで利用が進んでいるが、より生活に密着した形、ソフト面での活用を見いだしていくべきだ。

地下水、井戸水を基点としたコミュニティーが生まれれば、災害に強い地域をつくることができるだろ」と話している。

東日本大震災後、病院や公共施設を中心に、自己水源となる防災井戸の必要性が再認識され、協会加盟社にも問い合わせが多く寄せ

る。

東日本大震災後、病院や公共施設を中心に、自己水源となる防災井戸の必要性が再認識され、協会

加盟社にも問い合わせが多く寄せ

ることも想定。夏場であれば、冬期

水道が使えない避難所などで自治

体からの要請があれば、手動でく

み上げられる井戸を掘削すること

高田誠社長はこうした事例を踏まえ「地下水は大切な資源。消雪用

水などで利用が進んでいるが、より生活に密着した形、ソフト面での活用を見いだしていくべきだ。

地下水、井戸水を基点としたコミュニティーが生まれれば、災害に

強い地域をつくることができるだろ」と話している。